

# 文化庁メディア芸術祭シンガポール展 2008

- アジアにおける文化的な融合と共生 - “GROWING TOGETHER” をテーマに開催

文化庁メディア芸術祭では、シンガポールにおいて「文化庁メディア芸術祭 シンガポール展 2008」を開催することとなりました。開催会場はシンガポール美術館（国立）・新設棟（名称：8Q sam）で、今年 8 月 15 日にオープンしたばかりのこの新設棟は、現代美術を始めとする時代に先駆けた作品の展示を目的としています。

本展覧会のテーマは、アジアにおける文化的な融合と共生を目指し、“GROWING TOGETHER” としました。アート、ゲーム、アニメ、マンガといった世界を牽引する日本の表現文化としてのメディア芸術を紹介し、アジアにおける文化的な理解を深める企画展です。

展示会場は、メディア芸術に見られる「洗練」「融合」「ものがたり」という 3 つの特徴をゾーン毎のテーマとして展示を行います。また、会期中にはシンポジウムやワークショップ、劇場用長編アニメーションの上映会などを開催します。

昨年度は、日中国交正常化 35 周年記念事業として「文化庁メディア芸術祭 上海展 2007」を開催し、日本の作品約 100 点を総合的に展示。多彩なジャンルの作品を通じて、「楽しい文化を創造する日本」を紹介し、上海の来場者だけでなくマスコミや美術関係者からも高い評価をいただきました。今年度はさらに日本の文化を広く海外に発信することを目的に、「SIGGRAPH Asia」「ISEA」の開催等で世界の注目を集めるシンガポールにおいて、開催する運びとなりました。

## 開催概要

名 称：文化庁メディア芸術祭 シンガポール展 2008  
Japan Media Arts Festival in Singapore 2008

会 期：2008 年 11 月 21 日（金）～ 12 月 14 日（日）  
\* 11 月 21 日（金）はプレス説明会と内覧会のみで開催です。

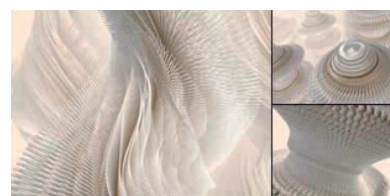
会 場：シンガポール美術館 新設棟（名称「8Q sam」）  
所在地：8 Queen Street, Singapore 188595  
URL: <http://www.singart.com/8qsam/>

主 催：文化庁・シンガポール美術館・CG-ARTS 協会

協 力：日本航空、日本通運、Conrad Centennial Singapore

後 援：在シンガポール日本大使館

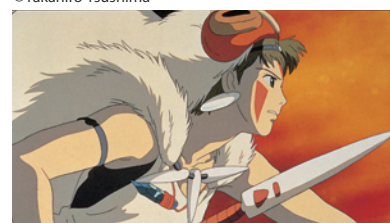
入場料：8Q sam 全体の入館料として一般 3S\$（シンガポールドル）  
シニアと学生は半額



©2001 NAMCO LIMITED, ALL RIGHTS RESERVED



©Takahiro Tsushima



©1997 二馬力・GND

この件に関する問合せ先

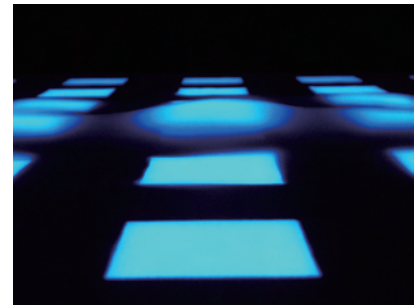
CG-ARTS 協会 広報 篠原・千葉 TEL 03-3535-3501 FAX 03-3562-4840 URL <http://plaza.bunka.go.jp/q/>  
広報分室 友野・安藤（プランデックス・ジャパン） TEL 03-3564-2361 FAX 03-3564-5238

## ■ ゾーン1 洗練／Sophisticated Craftsmanship

本ゾーンには、インタラクティブアート、フィギュア、静止画、CGアニメーションやアート映像、アニメーション作品を展示。それぞれの作品には、高い完成度からもたらされる洗練された感覚が備わっています。表現に対する作者の限りない追究から生まれる洗練された感覚は、形式こそ異なっていますが、どの領域にも見受けられるものです。また日本古来のクラフトマンシップが現在のメディア芸術作品にも息づいている様子が見受けられます。これらの展示作品に共通する洗練感覚を、個々の作品の奥底から見る事ができるゾーンです。

### 主な展示作品

- 『安重 (Anjyu)』 大場 康雄／映像
- 『Imaginary・Numbers 2006』 木本 圭子／映像
- 『愉快的機械』 岸 啓介／フィギュア
- 『青の軌跡』 鈴木 太朗／インタラクティブ・アート
- 『BOTECH-art』 村山 誠／静止画 ほか



© 鈴木太朗



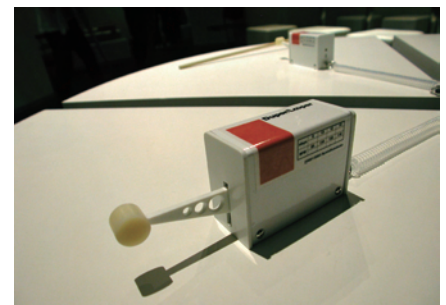
©maco

## ■ ゾーン2 融合／Interactive Trans-fusion

メディア芸術作品に見られる表現は、常にさまざまなジャンルを横断し、新たな融合をもたらします。本ゾーンには、さまざまなデバイスを用いたインタラクティブアートとゲーム作品が展示されており、既存の枠にとらわれない作品の力を体感することができます。アート作品におけるゲーム的娯楽性、ゲーム作品におけるインタラクティブ性や完成度の高さ、そしてアートとゲーム双方に見られる人と人とのコミュニケーションへの新しい眼差しを、実際に作品に触れて体験できるゾーンです。

### 主な展示作品

- 『Wii Sports』 「Wii Sports」開発チーム代表太田 敬三／ゲーム
- 『Duper/Looper』 クワクボ リョウタ／インタラクティブ・アート
- 『OLE Coordinate System』 藤木 淳／インタラクティブ・アート
- 『メディアアートの寓意』 津島 岳央／インタラクティブ・アート ほか



©KUWAKUBO Ryota



©2006 Nintendo

## ■ ゾーン3 ものがたり／Narrative Images

さまざまなストーリーは、多種多様なメディア表現によって語られます。ストーリーの多様性と表現の多様性は、私たちに「ものがたる」という行為のあり方について考えさせてくれます。本ゾーンには、アニメーション、ゲーム、マンガの各作品が展示されています。ストーリー性を持つ作品には、多種多様な表現形態があります。様々な技術や技法、素材を用いてストーリーが語られ、展開される様子が見られます。

### 主な展示作品

- 『バガボンド』 井上 雄彦 (原案：吉川 英治) /マンガ
- 『のだめカンタービレ』 二宮 知子 /マンガ
- 『カフカ 田舎医者』 山村 浩二 /アニメーション
- 『おはなしの花』 久保 亜美香 /井上 精太 /アニメーション ほか



©Yamura Animation / SHOCHIKU



©二ノ宮知子 / 講談社

# 展覧会イベント

## ■ シンポジウム

日本のメディア芸術とアジアの文化に関するシンポジウムを予定しています。

11月22日(土) 14:00～15:30  
シンガポール美術館 本館2F 講堂

## ■ 上映会

アニメーション部門受賞作品の中から劇場用長編アニメーションを特別上映します。

11月28日(金) 19:30～ 「千年女優」  
12月5日(金) 19:30～ 「冬の日」  
12月12日(金) 19:30～ 「河童のクウと夏休み」  
シンガポール美術館 本館2F 講堂  
(その他の上映予定作品「もののけ姫」「マインド・ゲーム」ほか)



©2001 千年女優製作委員会



©2007 木暮正夫 / 「河童のクウと夏休み」製作委員会

## ■ ワークショップ

「ロボットを作ろう」というテーマでワークショップを開催します。

11月22日(金)～23日(土) 10:00～16:00  
シンガポール美術館 本館1F グラスホール

※その他、シーグラフ・アジアとの連携シンポジウムを予定。

※スケジュールおよび内容に関しましては、変更になる場合がありますことを  
ご了承ください。